

八百屋の名物おばちゃん

懐かしい顔と再会しました。鉄砂川沿いにあったスーパー「マミー」(現在コスモス)の八百屋を営み、店先で威勢良く声を上げていた大平ムツ子さん(74)です。

引退して10年になるといふ大平さんは「先日、散歩してたら、若い男性が『おばちゃん、俺のこと覚えてる?』と声を掛けてきたんです」と言いつつ話を続けます。

「オレオレ詐欺じゃなかるうね、と失礼にも思ったばってん、残念ながらその顔に見覚えがなかとたい…」大平さんに声掛けたその青年は小さい時、買い物をする母親と離れて



大平さんが描く絵。八百屋さんだっただけに野菜の題材が多いようです



おしゃべりが尽きない大平さん

大平さんの店先のブドウを弟と二人で無断で食べてしまったとか。見つけた母親がきつく叱ると、大平さんは「これは全部食べていいけん、もうしたらいかんよ」と笑って許してくれたそうです。青年は大人になった今も、その時のことをはつきりと覚えてい

るそうです。「立派な青年の顔になつとるけん



畳2帖分ほどのマットも大平さんの手作り

分からなかったとね。なんだか、うれしくてねえ。商売が大好きだったのは、そんなお客さんとの触れあいや商売仲間との楽しい時間があつたから」と話す大平さん。引退後は絵画や手芸、工芸を楽しむに過ごしているそうです。どれも出来栄えのいい作品ばかり。

「全て独学で自己流。知り合いがね『あなたなどがんかして作るど?』と言つて、糸糸だの布だのといろいろ持つてくるとよ」と笑う大平さんはおしゃべりも尽きなく、「手八丁口八丁」とはこういう人のことを言うのでしようか。八百屋の名物おばちゃんは元気です。

かるたに描かれた町の歴史や文化

馬水南では、年4回にわたり「馬水南区かわら版」が発行されています。住民の横顔紹介や、これまで地区で起きた出来事を回想した「馬水南ものがたり」など、A4サイズ4ページの構成です。

編集長の篠原晴美さん(74)は、「地域のコミュニケーションツールとして、ささやかなことも発信しています」と話します。

また篠原さんは町内の友人らで構成する「歌留多研究部」で、町の歴史や

町の文化財や歴史を題材にしたかるた



文化を紹介する、かるたを制作しました。部員7人で作った読み句に合わせ、44枚の絵札の写真も研究部で撮影したそうです。

「かるたを制作し始めた矢先に熊本地震が発生しました。メンバーは被災しながらも、制作に尽力してきました。町の大切な文化や私たちの思いが詰まっています」と篠原さんは話します。かるたは篠原さん宅でも取り扱っています。(2,000円・篠原さん携帯/090-33015-5023)